

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970800678		
法人名	社会福祉法人くすの木会		
事業所名	グループホームいずみ		
所在地	栃木県小山市大字高椅128番地1		
自己評価作成日	令和4年9月30日	評価結果市町村受理日	令和4年12月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和 4年10 月24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度の法人全体の活動計画において「認知症の理解」が掲げられております。グループホームにおいては「ひとりひとりの尊重を大切に、認知症症状を理解し、その方にあった個別ケアの実践」を事業目標とし「認知症の理解」「認知症ケアの実践」を活動項目にしております。職員が毎月「認知症ケアの実践」について目標をたて実践を行っております。昨年の7月より職員体制が人事異動等で変わりましたが、良いところは継続していき、見直すところは改善して入居者様・職員が喜怒哀楽をともしながら毎日を過ごしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は田園風景が広がり自然豊かな場所に位置している。法人理念は「自立を支援し、その人の希望や願いを実現し、最後まで人間らしく生きることを援助する」としており、行動指針を掲げている。また、グループホームの活動指針を立てて、一人ひとりを尊重し、その方にあった個別ケアに取り組んでいる。認知症ケアの実践の目標を立て、職員はケアの実践と振り返りをして支援している。また、食事は職員が食材購入から行き、利用者の好みのものを手作りで提供している。季節の物や行事に添った料理を提供している。食事前の準備を利用者と職員が一緒にしている。コロナ禍の為外食が出来ないのでテイクアウトを利用して食が楽しみなものになるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は全体の朝礼・グループホーム会議等で唱和しています。理念を基に法人の手引書にて掘り下げ、日々活かしていけるよう努めております。	法人の基本理念と行動指針、品質方針を事業所の玄関に提示し、朝礼やグループホーム会議で唱和し、理念の意識付けと理解に努めている。理念を基に法人の手引書を活用して、支援に活かしていけるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の掲示板や、SNSを活用し、活動を地域やご家族に発信しております。コロナ禍のため地域との行事参加は、出来ておりませんが、出来ることを行っております。	法人の掲示板やSNS等で活動を地域に発信している。SNSを楽しみにしている家族もいる。コロナ禍の為地域の祭りや保育園等の交流、ボランティアの受け入れはできていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度の事業所の部門活動項目において、「認知症ケアの実践」を掲げ、グループホーム会議に研修を行い再度認知症の理解や支援方法、個別対応法を行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍なので、去年は書面会議でしたが、今年度から対面会議で行っております。活動報告・行事・入居者の状況等報告しております。委員編成があり、より地域との交流の手立てなどアドバイスしていただいております。	今年度7月から運営推進会議を2ヶ月毎に対面で開催している。家族代表や地域住民、警察署、消防署員、包括支援センター職員の参加で、活動報告、事業所の状況報告等を行っている。委員の参加もあり地域密着型の活動を理解してもらえるようグループホームの説明をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の介護保険上の運営において、市の担当者に相談・助言を受けております。	市の担当者からは、介護保険更新申請や事業所体制問題のアドバイス等を貰っている。市の認知症会議にも職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束においては、グループホーム会議や法人全体に3ヶ月に1回勉強会を実施しています。また、玄関等の鍵の施錠はせず、いつでも出入りを自由にしております。	法人全体で3か月毎に勉強会を実施しており、グループホームでも会議を行っている。職員の品格に対する向上の為「ハウレンソウ」の徹底をするようにしている。利用者の訴えに対してのスピーチロックや玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待においてはグループホーム会議や法人全体で勉強会を実施しています。		

グループホームいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を活用している入居者様はおりませんが、知識としてグループホーム会議にて勉強会を実施しました。勉強会を実施したことによって職員は、自分自身の親のことを考える機会が出来ました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や重要事項説明においては、入居前にお渡しし、一度内容を確認していただき、入居日に詳しく説明しております。今年度は物価高騰により食費と光熱費を増額させていただく際にご家族様に説明を行い同意を得ました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍なので、ご家族様との関わりが少ない状況ですが、顧客満足アンケート(年1回)を実施し、ご家族のご意見を真摯に受け止め、改善する部分は課題・分析してグループホーム会議時に報告しております。	顧客満足度アンケートを年1回実施して家族等の意見や要望を聞くようにしている。電話やSNS(登録された家族)で状況報告、写真等送付している。そこでの意見等は会議で話し合い共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の異動などで入れ替わりがあり、試行錯誤で日々の業務に取り組んでおります。今までの職員や法人で経験のある職員の意見や提案を聞き入れ、業務改善を行いながら取り組んでおります。	管理者は職員会議や日々の業務の中で職員の意見を聞いている。今年度、法人内で職員異動が大幅にあり、経験ある職員などが中心になって運営の改善等を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から代表者に勤務の状況や職員の力量など報告しており、それに対して改善できるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が兼務ということで、なかなか力量を把握することが難しい状況ですが、法人内やグループホーム内で勉強会を実施しています。また、職員同士で業務のトレーニングを行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流することは難しい状況です。同業者と交流することによって事業所の向上に結びつくので、前向きに検討していきたいと思っております。		

グループホームいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	昨年度1名と今年度1名の新しい入居者を迎えました。ご本人からの不安なことや要望等を聞くことは難しいところがありますが、ご家族様から生活歴や今までの暮らしを聞き出し、ご本人が安心して生活できるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談や面接時に、ご家族様からの聞き取りにおいて、信頼関係を少しでも早く築き、聞きづらいことも、最初に聞き出し、関係性を深めるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自身の意思を尊重し、難しい場合はご家族様の思いや尊重を大切に、何が事業所で支援出来るか判断しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居様とコミュニケーションを取り、日々の生活の中で信頼関係を築き楽しく生活できるように支援しております。常に見守りや声掛けをしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会の自粛やご家族との交流が出来ない状況です。グループホーム専用の携帯電話を準備していただき、ご家族にSNS登録をしていただき、連絡を取りやすい体制にしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍なので、現在は途切れないように支援することは難しい状況です。少しずつ馴染みの人との関係を築いていきたいと思っております。	コロナ禍以前は友人等が来所し、隣接する同法人の特別養護老人ホーム(以下「特養」)の喫茶店で楽しい時間を過ごせていたが、今はできていない。また、孫の結婚式に利用者が参加するために職員が付き添い支援をした経験もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間同士でおしゃべりしたり、歌を歌ったりして楽しませております。おひとりで玄関まで歩かれている方がいると、心配して下さる入居者様の姿を見かけます。		

グループホームいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員の異動等で入れ替わりがあり、サービス終了後のご家族様との関わりが薄くなってしまっておりますが、これからは関係性を保ちたいと努めます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居前にご家族から情報を得てプランを作成しております。「私の基本情報」「ケアポイント」に希望や願いと情報を組み込んでおります。また、ご本人からは、日々の会話の中から思いや意向を聞き取っております。	入居前に家族や本人から思いや意向を聞き取っている。また、入居後生活に慣れたころ改めて意向等を聞き取り職員間で共有している。意思表示の少ない方には工夫して話しかけて意向等を聞き取りしている。	職員が認知症状の勉強を強化して、今以上に個々の思いや意向の把握ができるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員の異動等で入れ替わりがあり、事業所の先輩職員からご入居様の情報を教えていただき、その方を知り支援しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しでも残存機能を活用し、職員の統一したケアで支援しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が不在にて、ケアプランにおいて充実したプランではありませんが、毎月のグループホーム会議においてカンファレンスを行い、職員間で情報共有し統一したケアに努めております。	現在、計画作成担当者が不在のため特養のケアマネジャーの協力や市の担当者にアドバイスを貰いながら介護計画を作成している。不定期ではあるがモニタリングを行っている。利用者の状態が変化した際には、カンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「介護記録の書き方」の研修をグループホーム会議で実施しました。記録の大切さを再認識し、個別の記録や職員間の連絡ノートを活用しながら、情報を共有し反映しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体で、コロナ禍のため面会を自粛しておりますが、ご家族が来苑された際には、少しの時間ですが、ご家族と会える機会を設けております。		

グループホームいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で保育所との交流が出来ない状況でしたが、なんらかの方法で交流できないかと思い、小物を作り差し上げ、お礼に来てくださり、園児と交流することができ楽しんで頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に月1回は受診をしております。急変時・体調不良時には連絡し、受診をするようにしております。また夜間の体調不良時には、主治医に連絡をとれる体制にしております。受診をする際はご家族が医院にお連れしていただいております。	今までのかかりつけ医を希望することができる。現在の利用者は特養の嘱託医が月1回診ている。コロナ禍の現在は状況報告受診で薬等の処方してもらったり、アドバイスを受けている。歯科は訪問歯科を利用している。病変等には特養の看護師に相談することもできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護職に急変時や体調不良時等相談し指示を受けられるようにしています。職員が不安な時は看護職に相談することによって受診が必要かの判断の指示を受けられるようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今のところ入院者はおりません。骨折にて入院される入居者様においては、早期退院を医療機関にお願いしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期においては、ご家族に、事業所での出来ること・出来ない事を説明させて頂いております。可能な限り一緒にいる時間を作るなど、ご家族が後悔のない様に支援しております。	契約時に事業所で出来ることと出来ないことを本人・家族に説明している。事業所で対応が難しくなった場合は、本人・家族に特養などの住み替えを提案している。現在、家族から看取りケアのニーズもあり、本人の状態によっては対応できるよう検討している。	看取りに向けたマニュアル整備と体制づくり、職員の不安を軽減するよう看取りの勉強会等の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の手引書に「急変時の対応について」の項があり、研修を行っております。普通救急講習会を受講しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練においては、日中・夜間を想定し、水害・災害とも訓練を行っております。非常災害時の水や飲料等の備蓄を用意しております。	年2回の事業所の避難訓練以外に、法人全体で毎月1回、昼夜を想定した訓練をしている。水害訓練は避難場所まで移動する訓練をしている。備蓄は法人と事業所で確保している。	

グループホームいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を知り、声掛けひとつでも対応が変わってきますのでその方にあった対応をしております。居室・トイレ・浴室においては個室となっておりますので、プライバシーは保たれております。	法人全体でプライバシーの尊重について研修をしている。個人にあった声掛けや個人を尊重した声掛けに注意しており、スピーチロックにならないように職員同士で注意している。プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの中でご本人の希望や意思を汲み取るようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身のペースで、過ごしたいように生活して頂いております。食事やお茶の時間においては、声掛けをさせて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカラーやカットはご自身から要望がある時には訪問美容に依頼しております。スカーフ等身につけたい入居者様においては、お好きなように身につけていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは職員が、併設の特養の献立を参考にしながら、作成しております。季節を感じる食材や行事食を取り入れております。食事前の準備や下膳等片付けをお手伝いして頂いております。	特養の献立を参考に職員2名が交代で1週間毎の献立を立てている。食材は週2回、職員が買出しに行って手作りで提供している。季節の物や行事に添った料理を提供している。食事前の準備を利用者と職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おひとり刻み食ですが、それ以外の入居者様は常食を召し上がっております。食事摂取が難しい場合は栄養補助食品で栄養を補って頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は声掛けにて行って頂いております。出来ない方には、口腔洗浄液にて清潔を保っております。義歯は定期的に洗浄剤につけております。		

グループホームいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ利用者6名、夜間オムツ使用者2名おりますが、見守りが必要な方には排泄チェック表を用いています。その方にあった排泄時間でトイレ誘導しており、トイレでの排泄を基本としております。	排泄チェック表を活用しながら、声掛け誘導してトイレでの排泄をしている。リハビリパンツを使用したり、夜間はトイレ誘導したり、その方にあった支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立や食事において、自然排便に心掛けております。多くの水分摂取をしたり、冷水を飲んで頂いたり、腹部マッサージ等しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回入浴を基本としております。体調不良時には、入浴日を変更したり、清拭・更衣等を行っております。ご自身で衣類を用意し、プライバシーに配慮して入浴していただいております。職員が一人で介助が難しい時は無理せず二人介助にて支援しております。	週3回、午後の個浴入浴をしている。1対1で介助し、必要に応じて2対1で介助している。沐浴剤、菖蒲湯等を使用したり、歌を歌ったり入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は毎日午睡を進めております。午睡されない方もおりますが、ホールのソファで休んで頂く等休息していただいております。寝着や寝具は清潔にしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は鍵のかかる所に保管しております。個人毎に一包化しており、名前と朝食後・昼食後・夕食後とわかるようになっております。また服用する日付を記入し、口の中まで入れ確認しております。服薬が変更になった場合は、連絡ノートや口頭で周知するようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理で使用する野菜の皮むきを手伝って頂いたり、今までコーヒーを好んで飲まれていた入居者様には、お茶の時間にコーヒーを飲んで頂くなど、支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出することは難しい状況ですが、人と関わらない程度に近場に出かけたり、食材料の買い出しと一緒に出かけたりしております。	コロナ禍で遠出は難しいが、敷地内の散歩や近くのドライブをしている。事業所近くにソメイヨシノや思川桜などがあり、桜の季節には楽しむことができる。また、地域の花火大会が敷地内から見ることができる。今後、道の駅の菊祭りに行く予定である。	



グループホームいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお小遣いを所持している入居者様は、美容に係る費用や施設内の喫茶を利用する際ご自身でお支払いしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分の携帯電話をお持ちになっている方は、自由に連絡をとっております。また、遠方に住んでいるご家族様からの電話を取り次いだりしております。暑中見舞いハガキをご家族様に郵送し、近況報告をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや各居室においては、過ごしやすいように温度や湿度を職員が適度に調整しております。日が差し込む居室においてはレースのカーテンを引くなど居心地よく過ごせるようにしております。	リビングは床暖房になっており、居室はエアコンを使用して温度や湿度管理を職員が調節して過ごしやすいようにしている。リビングにはソファや調度品の家具が置いてあり、壁には貼り絵や写真が飾ってある。天井も高く天井ファンが設置されており風通しが良く居心地よく過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには椅子やソファを配置しており、好きな場所でくつろいでいたり、座った際のお隣さんと話し等して過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた使い慣れた物や馴染みの家具などを持って来ていただくことで、家庭の延長となるようにしております。また、レクリエーションで行った入居者の塗り絵や作品・写真を飾りご自分の部屋と分かるようにしております。	ベッドやクローゼット、洗面台、エアコン、カーテンは備え付けてあり、布団類やテレビ、ソファなど使い慣れた物を持ち込んでいる。レクリエーションで作ったものや写真を飾ってあり本人が居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、安全に生活できております。手すりを使うことによって自力歩行が出来たり、排泄においても、ご自分でトイレでの排泄が出来るようになっております。		